

学 科	作業療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	一般臨床医学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	夜間部2年		学期	前期	教室名	802
担 当 教 員	高野 佳子/三田 直人					
実務経験とその関連資格	高野:看護職として急性期から終末期の機能を有する病院で28年、その後医療介護領域における機能回復・在宅復帰を中心とする施設に3年勤務。また認定看護管理者として16年、医療安全管理学修士修得後8年という経験を活かし管理教育活動に従事。非常勤講師としては、看護専門学校において看護の総合と実践を担当。 三田:作業療法士として身体障害領域の病院で5年間勤務。 主たる疾患として、リウマチ、脳梗塞、パーキンソン病、頸髄損傷、大腿骨頸部骨折などのリハビリテーションに従事。 資格:音楽健康指導士 準2級、地域音楽コーディネーター、認知症ケア指導管理士。					
《授業科目における学習内容》						
高野:薬力学と薬物動態学の観点から薬理学(作用機序、投与方法、体内動態、副作用など)を理解し、作業療法士として対象者に関わる意義を学ぶ。 各疾患の治療の流れを知り、効果的なリハビリプログラムを実践する方策を考える。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 : 90% 小テスト : 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
薬理学(リハベシック薬理学・臨床薬理学 内山靖・藤井浩美・立石雅子 編 医歯薬出版株式会社)						
《授業外における学習方法》						
高野:復習として前回講義分の練習問題を毎回実施するので学習しておいてください。						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	薬理学の成り立ちを知り、薬が作用するしくみや薬物動態を学ぶ		教科書 配布プリント	薬物による疾病の治療について予習しておいてください	
	各コマにおける授業予定	薬理学とは何か 薬力学(薬物受容体・イオンチャネル・酵素・トランスポーター) 薬物動態学(薬物の投与経路・薬物の吸収・分布・代謝と排泄・指標)				
第2回	授業を通じての到達目標	薬物動態から臨床薬理学を学ぶ		教科書 配布プリント	第1回目の講義内容から確認テストを行うので復習しておいてください 臨床薬理学の概要は予習しておいてください	
	各コマにおける授業予定	薬物相互作用・影響因子・有益性と危険性 剤形、薬物投与量、薬物の副作用 薬の種類と具体的な作用, そのメカニズム				
第3回	授業を通じての到達目標	神経系に作用する薬物が理解できる		教科書 配布プリント	第2回目の講義内容から確認テストを行うので復習しておいてください。 神経系の解剖生理と疾患は予習しておいてください	
	各コマにおける授業予定	末梢神経系(交感神経作用薬、副交感神経作用薬、筋弛緩薬) 中枢神経系(脳出血、脳梗塞、パーキンソン症候群、抗精神病薬 抗うつ薬、抗てんかん薬など)				
第4回	授業を通じての到達目標	循環器系に作用する薬物が理解できる		教科書 配布プリント	第3回目の講義内容から確認テストを行うので復習しておいてください。 循環器系(心臓、腎臓)の解剖生理と疾患は予習しておいてください	
	各コマにおける授業予定	循環器疾患とは:降圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、血液凝固・線溶系に作用する薬物、血液に作用する薬物				
第5回	授業を通じての到達目標	呼吸器系・消化器系に作用する薬物が理解できる		教科書 配布プリント	第4回目の講義内容から確認テストを行うので復習しておいてください。 呼吸器系(気道・肺・胸膜・縦郭) 消化器系(消化管・肝臓・膵臓)の解剖生理と疾患は予習しておいてください	
	各コマにおける授業予定	呼吸器疾患とは:肺炎、気管支喘息治療薬、鎮咳薬・去痰薬・呼吸促進薬 消化器疾患とは:消化性潰瘍治療薬、胃粘膜防護薬、制吐薬、下痢と止痢薬、炎症性腸疾患				

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	代謝・内分泌に作用する薬物が理解できる 抗炎症薬が理解できる	教科書 配布プリント	第5回目の講義内容から確認テストを行うので復習しておいてください。 代謝と内分泌系の解剖生理と疾患は予習しておいてください
	各コマにおける授業予定	ホルモンとホルモン拮抗薬(糖尿病治療薬、甲状腺疾患治療薬、視床下部・下垂体ホルモン、骨粗鬆症治療薬)ビタミン NSAID、膠原病、痛風治療薬、抗アレルギー薬		
第7回	授業を通じての到達目標	抗感染症薬、抗癌薬 免疫治療薬が理解できる 与薬エラーについて知る	教科書 配布プリント	第6回目の講義内容から確認テストを行うので復習しておいてください。 感染症、がん、免疫疾患は予習しておいてください
	各コマにおける授業予定	感染症とは、耐性・菌交代症・日和見感染、抗菌薬、ウイルス感染症、真菌、がん治療と、抗がん薬(細胞傷害性、分子標的薬) 免疫系とは、免疫抑制薬、免疫増強薬・予防接種薬 よくある与薬エラー・薬剤の取り違いエラー・与薬方法のエラー		
第8回	授業を通じての到達目標	病因の種類を理解することが出来る	教科書 配布プリント	
	各コマにおける授業予定	疾患・疾病には内的外的な要因が存在します。その種類を知ること で疾患理解のに繋がっていきます。		
第9回	授業を通じての到達目標	退行性病変。進行性病変	教科書 配布プリント	
	各コマにおける授業予定	細胞組織の変化に伴う症状の出現の仕方の違いについて学びます。 また各種病変の違いの意味を学びます。		
第10回	授業を通じての到達目標	免疫の働き	教科書 配布プリント	
	各コマにおける授業予定	自然免疫・獲得免疫の違い、免疫機構の仕組みで生体に反応する のかを学びます。		
第11回	授業を通じての到達目標	炎症・感染症	教科書 配布プリント	
	各コマにおける授業予定	生体防御機能である、炎症反応及びその出現形式について学びます。 また感染の種類・経路について学びます。		
第12回	授業を通じての到達目標	腫瘍	教科書 配布プリント	
	各コマにおける授業予定	悪性腫瘍・良衛腫瘍の違い、腫瘍の発生機序・名称の違いを学び ます。		
第13回	授業を通じての到達目標	全身循環障害(高血圧など)・局所循環障害(血行障害)などの循環 障害を理解し、各項目について列挙・説明できる	教科書 配布プリント	
	各コマにおける授業予定	各論 1:循環器		
第14回	授業を通じての到達目標	呼吸器の構造、障害の種類と病態・病因を理解し、各項目について 列挙・説明できる	教科書 配布プリント	
	各コマにおける授業予定	各論 2:呼吸器		
第15回	授業を通じての到達目標	消化器・栄養・代謝障害(糖代謝異常・アミノ酸代謝異常・脂質代謝 異常)について理解し、各項目について列挙・説明できる	教科書 配布プリント	
	各コマにおける授業予定	総論 4:代謝障害 各論 3:消化器		